

先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下胆道拡張症手術および術後経過に関する後方視的検討

1. 研究の対象

2010年1月1日から2016年12月31日までに当院にて先天性胆道拡張症に対して開腹および腹腔鏡下根治術を行った患儿

2. 研究目的・方法

先天性胆道拡張症に対する腹腔鏡下根治術は、2015年より倫理委員会で承認されており（「診療報酬表に記載されていない小児内視鏡手術に関する前方視的研究」）、2016年4月にようやく保険収載された新しい術式である。今回、当院での症例を後方視的に検討し、開腹での根治術成績と比較することで、術式の妥当性、問題点の発見につながると考えられる。

2010年1月1日から2016年12月31日までに当院にて先天性胆道拡張症に対して開腹及び腹腔鏡下根治術を行った症例（それぞれ35例、26例）の術中および術後合併症、転帰について診療録を用いて後方視的に検討する。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報：カルテより患者情報（年齢、性別、家族歴、胎児歴）・手術情報（術式、術中所見、手術時間、出血量、輸血量、麻酔等）・病理診断・術後経過（合併症：縫合不全、吻合部狭窄、肝内結石の発生など・入院日数・再手術・転帰）などを抜粋する。

試料：なし。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学医学部附属病院小児外科

(052) 741-2111 (代表)

研究責任者： 名古屋大学大学院医学系研究科 小児外科 田井中貴久